特定非営利活動法人分析産業人ネット

第 21 期活動報告

令和 6 年度

2024.4～2025.3

特定非営利活動法人
PAI-NET 分析産業人ネット

令和６年度の活動概要

全体の状況

令和６年度（2024 年度）は引き続き、ウクライナとロシア、イスラエルとハマス間で戦争常態が続き中国と EU も内部に抱えた問題で力強い経済成長は出来ず、米国も １ 月に返り咲いたトランプ大統領の政策について経済成長への疑問が投げかけられました。国内ではやっとデフレ基調から脱する気配が見え、日銀がマイナス金利を解消し、大手企業を中心に大幅な賃上げが実現しました。しかし、世界情勢の不安から円安が進み、物価上昇は賃上げを上回り力強い経済成長は実現しませんでした。当法人の活動は、円安による海外での活動費用の増加等が、活動の推進にマイナスに働きました。

事業活動の概要

機器分析を担う専門家の人材育成事業として２つの事業を行っています。スクール事業は講習会が昨年に続いて実施」出来ませんでしたが通年開催の通信講座は昨年並みの実績でした。資格認定事業は機器分析を担当する専門家の資格「検査分析士」と機器分析の販売等を担う「検査分析マーケティングエキスパート」資格の認定試験を今年も同時に７月に全国一斉に行いました。受講者は昨年並みでした。検査分析士資格認定試験の団体試験は８月、１月に３回開催しました。資格試験の合格者が入会できる検査分析士会の会員を対象とする研修会は６月と１１月に東京と大阪で開催しました。現代社会の安全を維持するために機器分析の活用を推進する振興普及事業は、ビジネス支援事業で毎年３つの展示会に出展をしてマーケティング支援をしていますが、今年は研修支援事業も行いました。吸光光度計の製造販売を行う簡易機器事業はアナログ吸光光度計とともに、吸光光度計の学習用組み立てキットの販売が増加しました。

文化活動の概要

機器分析は先端の研究開発での活用から、機器分析に毎日携わる方、工場等で品質管理に従事する方、医療に機器分析を活用する方、学生に機器分析の初歩を教える方など社会の多くの場所で必要となっています。これらの幅広い機器分析に関する活動の一端をエッセイとして捉えるナーチャー賞エッセイコンテストを毎年開催しています。また、日本語教育に力を注ぐタイ国の泰日工業大学の日本語スピーチコンテストとプレゼンコンテストの開催の支援を今年も行いました、

今期のトピックス　設立から 20 年

2004 年 11 月 24 日に NPO 法人として設立した特定非営利活動法人分析産業人ネットは今年度満 20 年を迎えました。2004 年の発足時は NPO（ノンプロフィットオーガナイゼーション）活動と企業活動の違いについて世間の理解も進んでいなかったので、ＮＰＯ活動の実現目標としてミッション、ビジョン、コミットメントを定めま、これに基づいて活動を行ってきました、失敗も多くありましたが、20 年たって、検査分析士資格認定事業を筆頭にいくつかの事業活動が社会の支持を得て継続しています。その間、多くの個人と企業に活動についてご理解を戴き、また金銭的な支援を含めてご支援を戴きました。人でいえば 20 歳は成人式ですが、当法人は未だに志半ばという状況ですが、それにもかかわらず、設立当時から活動を行ってきた会員の高齢化が進みました。志半ばとはいえ、現在の活動をこれからも継続していくことの確認もこめて、設立記念日の 11 月 24 日に設立記念パーティーを開催し 20 年記念誌を発行しました。

設立 20 年記念パーティー

11 月 24 日に東京のガーデンパルスホテル高千穂の間で午後 2 時から 4 時まで記念パーティーを開催しました。企業の定年前後の技術者や大学の研究者が会員となり 2004 年に設立して以来の 20 年間、定年年齢が伸びたこともあり、昨今のコロナ感染症による行動制限等も拍車をかけて、新規の会員が思うように増えなかったため、高齢化が進みました。このため、記念パーティー開催は昼間に行い、半数の会員はお茶での乾杯となりました。会員間のコミュニケーションが円滑に進むように会場には今までの活動を記録したパネルを８枚、テーマごとに掲示しました。

下図　活動を纏めた８枚のパネル

20 年記念誌の発行

高齢化が進む当法人ではこれからの活動には後継者が欠かせません。記念誌は 20 年史とはせずに NPO 法人の今までの活動を振り返り。今後の活動の継続を目指す一助となるように個人の集団として、会員の活動を中心にするため会員からの寄稿を中心とし、支援サービス対象となった企業や大学所属の方から寄稿をいただき編集をしました。具体的には会員 26 名と協力者や顧客等 33 名の計 59 名から寄稿して戴きました。

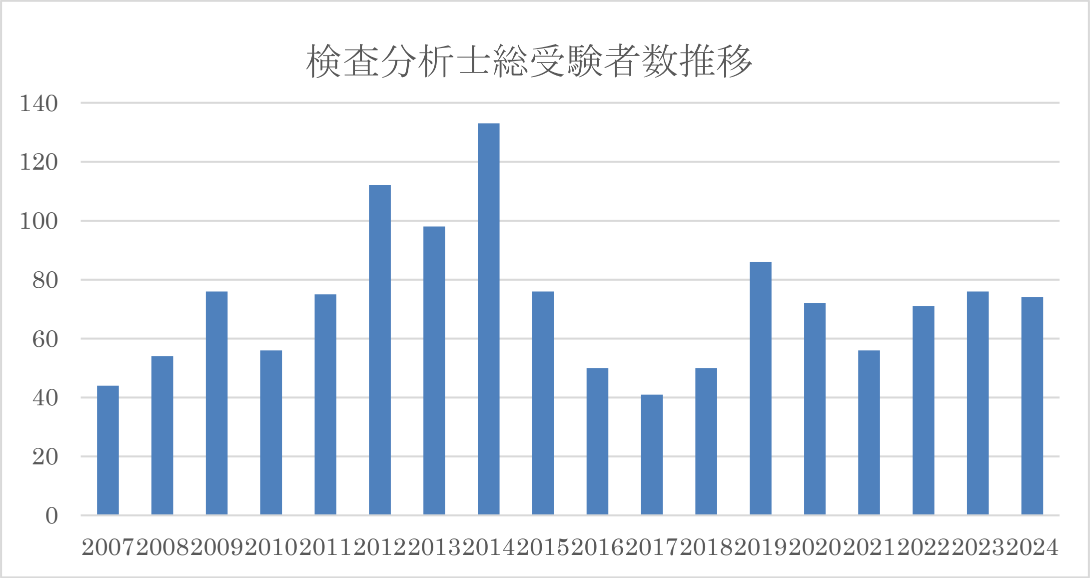
事業報告

Ⅰ．人材育成事業

当法人のビジョン「分析技術を担う、世界に通用する人材の育成」を目指して活動しています。

1．資格認定事業

検査分析士資格は初級、中級、上級、特級と 4 段階で認定を行い、検査分析士マーケティングエキスパート資格は初級、上級、特級と 3 段階で認定を行っています。初級試験は両資格とも認定試験用に独自に作成したテキストの範囲で４択５０問の選択問題で評価をします。初級の認定試験は会場を準備して行う一斉試験を 2024 年 7 月 27 日の午後、昨年と同じ東京、名古屋、大阪、と福岡の 4 都市で行いました。札幌と仙台については受験者がありませんでした。企業内で行う団体試験は８月に２社、１月に１社に対して実施しました。この結果、一斉試験の受験者は初級 17 名、上級 1 名、団体試験の受験者は初級 26 名、中級 1 名となりました。また大学課程履修での受験者は 23 名でした。その結果、受験者総数は 67 名となりました。一斉試験の初級合格者は 12 名で団体試験の合格者は 14 名、課程認定合格者は 14 名で計 38 名の方が初級検査分析士となりました。初級資格合格者が入会できる検査分析士会の研修会は今年も 6 月と 11 月に東京と大阪で開催しました。



2．トリニティースクール事業（講習会・通信教育事業

講習会は今年度も開催できず、通信講座は履修期間 1 カ月のユビキタス講座、3 か月のパーマネント講座とも受講者は昨年並みでした。

Ⅱ．振興普及事業

当法人のビジョン「社会基盤となる分析技術に関する技術の普及」を目指して活動しています。

１．ビジネス支援事業

マーケティング支援事業は出展する３つの展示会で実施しています。4 月に開催された CPHI 展（国際開発医薬品展）では 1 社に対してマーケティング支援の展示代行を行いました。9 月の JASIS 展（最先端科学・分析システム＆ソリューション展）では 2 ブース出展をし、2 社に対してマーケティング支援のアドバイスを行い、Pittcon ブースの支援も行いました。 3 月に米国のボストンで開催された Pittcon2025 カンファレイスではブース出展とセミナーを２つ主催し、3 社のマーケティング支援を実施しました。また、昨年に引き続きランチョンミーティングを開催し 27 名の参加者に対して Pittcon の展示会の特徴や歴史等を中心に紹介をしました。

今年は研修支援事業として環境計測会社の新入社員研修の講師派遣を 4 月に行いました。

２．ネットバザール事業（通信販売事業）

今年度も蛍光 X 線分析で使用するプラスチックフィルム等が年間を通じて安定した受注があり、アナログ吸光光度計はケニス社からの受注が減る一方でホームページ経由の受注が増加しました。また、アナログ吸光光度計とともに学習用組み立てキットの受注が増加し、学習用組み立てキットはアナログ吸光光度計にならぶ受注件数となりました。

３．コンテンツ制作事業(出版及び動画制作)

設立 20 年の記念誌を編集して発行しました。記念誌は 4 章で構成され、第 1 章は「分析産業人ネットの紹介」で、外部の方の寄稿を中心にまとめました。第 2 章は「NPO 法人の事業活動の紹介」で現在実施中の 6 事業について会員の寄稿を中心にまとめました。第 3 章は「文化活動の紹介」で会員と外部からの寄稿で構成しました。第 4 章は「将来の活動の前に」で会員の寄稿が中心です。

４．簡易機器事業

今年度はアナログ吸光光度計と組立キットの販売が好調だったために、生産に時間を割いたために吸光光度計の技術を利用するデジタル表示の蛍光光度計、濁度計の開発、アナログ吸光光度計を利用する化学物質の検出法、学習用組み立てキットの拡張型製品についての商品化も進みませんでした。

Ⅲ．文化活動

日本では「社会基盤となる分析技術に関する技術の普及」のビジョンにそって、タイ国では「分析産業人ネットの慈善活動」で掲げたビジョンに基づいて活動を展開しています。

１．ナーチャー賞エッセイコンテストの開催

今年で16回目となる機器分析に関するエッセイを対象とするナーチャー賞エッセイコンテストは募集を 9 月に開始、告知を例年通り複数の募集サイトに掲載して行いました。11 月 26 日に応募を締め切り 19 名の方から応募がありましたが機器分析に関連しない投稿が 4 件ありました。これらを除くと応募者の内訳は新規応募が３名、リピーターが 12 名でした。受賞者は大賞１名、優秀賞２名、スティディオス賞、ノヴィ・ホミネス賞、ファーストペンギン賞、カルチュラアナリティカ賞、検査分析士会奨励賞各１名の計８名でした。1 月 19 日に東京都千代田区のホテルマイステイズお茶の水で受賞者をお招きして授賞式を行いました。

２．タイの泰日工業大学（TNI）の日本語スピーチコンテストの支援

コンテストは毎年、全学生が受講する日本語講座が終了する 3 年前期の終了後の 10 月に全学の学生を対象とするプレゼンコンテストと主に日本語ビジネスコースの学生を対象とし行われるスピーチコンテストの２つのがあります。今年の第 14 回プレゼンコンテストは 10 月 30 日に開催され 15 チームの中で予選を行い 10 チームが参加し「卒業後にしたい仕事とそのために現在学習する内容、就職したい企業とそのために必要なスキル」をテーマとする内容のプレゼンで優劣を競いました。また第 16 回スピーチコンテストは２月５日に開催され、日本語能力試験 N3 以下と N2 以上の２つのグループに分かれて実施されました。N3 以下のコンテストは「日本語の面白さ・難しさ」と「私の好きなタイの文化・ソフトパワー」の２つのテーマから選択して予選を勝ち抜いた７名で競い、N2 以上のコンテストは自由テーマで３名が競いました。

３．タイの泰日工業大学で日本語教師用に参考図書の寄贈

全学生に日本語学習の履修が行われる泰日工業大学の日本語教室の指導者はタイ人と日本人の先生です。先生方は学生が履修するための教材を独自に作成していますが、教材作成の参考にする資料はほとんどが日本で出版されています。このためタイで入手することが困難な書籍もすくなくありません。そこで日本語教室の先生方が希望すると図書を毎年、日本で調達して寄贈しています。

Ⅳ．法人の運営状況

運営に関する業務は、東京都千代田区の事務所で行いました。

１．組織

当法人の運営は理事会で経営方針、経営計画等を審議し、事業の具体的な活動方針は理事と正会員、及び外部の委員も加えた人材育成委員会、資格推進委員会等の委員会で方針を審議します。具体的な実務は、理事会等で決められた方針、計画に基づいて事務局で行います。正会員だけでは対応できない検査分析士資格認定試験の問題作成等については必要に応じて外部に委託または会員とボランティアの専門家により実施しています。ナーチャー賞エッセイコンテストは公正を期するため会員と外部の有識者による 9 名の審査委員により点数による評価を行い、この結果を踏まえて選考委員会で受賞者を決めています。事務局は理事１名と職員１名の２名で通常の業務を行い、検査分析士の試験監督や展示会の展示要員等の一部はアルバイトを採用しています。

２．財務

当法人は外部資金に依存せずに会員からの会費収入と、当法人が行う事業収入により活動をおこなうことを目標にしています。しかし、会費収入と事業活動による収入に対して現在、展開している活動にかかる費用をすべて賄うことは今年度も出来なかったので、今年も活動を持続するために不足する資金を外部からの寄付と理事を含めた会員の寄付により補充しました。

３．投資

今年度も昨年と同様に円安の影響でタイの泰日工業大学への支援や米国のPittcon2025への参加費用等の負担が大きく、開発につながるような投資は出来ませんでした。

４．広報

当法人の広報は正会員・賛助会員むけに季刊誌「NURTURE」を検査分析士会会員向けに季刊誌「SHUHARI」の発行、ホームページは日本語の分析産業人ネットの他独立した英文のホームページと検査分析士会のホームページで情報発信をしています。F分析産業人ネットのホームページは、スクール事業の受講の申込、検査分析士資格試験の申し込み、ネットバザールでの消耗品等の販売、エッセイコンテストの募集等の機能を備えています。検査分析士会ホームページでは機器分析に関する情報を中心にして情報を発信しています。

特定非営利活動法人分析産業人ネット
英文名　Professionals’ Net Work in Advanced Instrumentation Society
設立　2004 年 11 月 24 日
事務所所在地　〒101-0063
東京都千代田区神田淡路町２－６　淡路ビル４F
電話　03-5294-3115　FAX 03-5294-3344 E-mail info@pai-net.or.jp